

かやうに申まいらせ候へハ ははかり入候へ共 一
 ふて申まいらせ候 さてくゆうせいの御事 かや
 うに御なり事 御いたわしき なかく申はかりな
 く候 又そのおりふし まんところに候しほとに
 あとの事ハ はちおもかくし申候て候 さ候ほとに
 ゆうせいのいろく物の物 人しりたることく にん
 きおし候て まんところとのへ まいらせ候 さた
 めて御申あるへく候 さ候ほとに ゆうせいのきか
 へ しようくそのきわ きられ候て うしなわれ
 候 又すこしのこりたるおは ほねおもおられたる
 しゆんけにも まいらせ候 又あとのとむらいにも
 申て候 さいいわ かきたて候て 申まいらせ候
 このほとなしみ申候ほとに すこしの物おは ゆう
 せいのかたみにも みまいらせたく候 給候ハ、
 いかほと御うれしく思まいらせ候 返々このよし
 まんところとのへも 申まいらせ候 ゆうせいの物
 人しり候ま、 みなくまいらせ候 このにんきの
 ま、 給候ハ、 いかほと御うれしく候
 あなかしく
 くもん所とのへ まいる

たまかき

こんなに申し上げましては恐れ入りますが、一筆申
 上げます。さてさて、ゆうせい（祐清）のこと、
 このようにおなりになりましたこと、御いたわしき
 はとても口では申すこともできません。祐清遭難の
 ときは、政所にいましたので、祐清没後のことにつ
 きまして、恥をも忍んで申し上げます。祐清のいろ
 いろの物は、人もみんな知っておりますように、記
 録をして（新見庄の）政所の殿（三職）へ差し上げ
 ましたので、定めてお申しあるでしょう。さて祐清
 の着替え少々、あの時斬られて失われましたが、少
 しの残ったものは、葬儀のことから法要のことなど、
 世話になった出家（僧）に上げ、また墓印を立てる
 ことなどにも使いました。委細は書き上げておきま
 す。私はこのほど祐清に馴染んでおりましたので、
 少しの物でも形見として私のそばに置きたいと思
 いますので、ただけますなら、どんなにうれしいこ
 とでしょう。返す返すこの由を政所の殿へも申し上
 げます。祐清の物は人も知っていますので、全部処
 分いたしました。この記録のまま（残りの三点
 を）私にたまわりますなら、どんなにうれしいこと
 でしょう。あなかしく。

たまがき

（東寺）公文所殿へ 参る

ゆうせいのいろく／＼にんき

祐清の色々な物の記録

- 一 御足一貫文 そのきわいろく／＼二つかい候
- 一 あおこそて一 しゆんけ二まいらせ候
- 一 ぬきてわた二 同じゆんけ二まいらせ候
- 一 かたひら一 同じゆんけ二まいらせ候
- 一 たゝミのおもて五まい うり候て これも

あとの事二つかい候

- 一 銭 一貫文 葬儀の時に色々使いました
- 一 青い小袖 一枚 出家（僧）に差し上げました
- 一 抜き手綿 二枚 同出家に差し上げました
- 一 帷子 一枚 同出家に差し上げました
- 一 畳の表 五枚 売りまして これも

このいろく／＼ハかやうにして候

これら色々な物はこのように処分いたしました

又これハわひ事申まいらせ候

また、次はお願い事として申し上げます

- 一 しろいこそて一
- 一 つむきのおもて一
- 一 ぬのこ一

- 一 白い小袖 一枚
- 一 紬の表 一枚
- 一 布子 一枚

これ三の事ハ ゆうせいの

これら三つの品は祐清の

かたミにも みせられ候ハ、

形見として私にいただけますなら

いかほと御うれしく候

どんなにうれしいことでしょう、